

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

391号

2023年10月号

자주

発行 在日韓国民主統一連合
(韓統連) 大阪本部

〒544-0034

大阪市生野区桃谷3-13-6

TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378

毎月1日発行 購読料 年間3000円

郵便振替 00940-7-314392

民族時報社 大阪支社

はじめての場所、新たな出会い、そしてひとつの想いへ

—第28回統一マダン生野を盛大に開催しました—

第28回統一マダン生野実行委員長 金昌範(キム・チャンボム)

今年の統一マダン生野は地域状況の変化や多くの方からの意見などを勘案したうえで、開催日程も場所も一新し、9月17日(日)に「いくのコーライブズパーク(通称:いくのパーク、旧御幸森小学校)」で開催しました。当日は最高気温32.7℃という予想外の暑さの中での開催となりましたが、それでも開催時間の前から多くの方が来場し、売店を、そして日陰の場所を次第に埋め尽くしました。

大阪朝鮮中高級学校民族楽器部の演奏に始まり、よく準備された舞台演目に、来場者たちの注目が途切れることはありませんでした。キックアーツテコンドーの子どもたちの芝生の上での演武は会場に緊張感と親近感をもたらし、きむ・きがんさん、ちゃんへんさん、そして安聖民(アン・ソン)

さんと続いた演目では、各々の出演を楽しみにしていた観客からの拍手や歓声がいつそう大きくなり、会場全体の高揚感が増していきました。

ハンテプンのサムルノリが会場の雰囲気最高潮に押し上げる中、韓国からのゲスト615市民合唱団が登場しました。ふだん仕事をしたり、自主、平和、統一の運動に取り組む人々により構成された総勢29名による心を込めた歌は、会場全体に大きな共感、連帯感を生み出してくれました。催し全体のフィナーレの「ウリエソウォン」合唱のときにできた出演者、来場者一体となった大団円が、そのことをもっとも表していました。

すべての出演者は紹介できませんが、出演して下さった方々、そして司会という大役を不慣れな中でも情熱的に乗り切ってくれた若い二人に心か

らのお礼を送ります。併せて、出店についても早くから多くの方々が出店応募して下さい、楽しく充実した場を提供して下さいたことに感謝します。

今回の統一マダン生野を通じて多くの成果と課題、そして可能性が浮かび上がりました。

宣伝・告知活動は従来以上に苦戦しました。それでも実行委員会を構成する団体、個人が時間を割いて努力する一方で、統一マダン生野を楽しみにしてくれている方々の口コミやSNSを通じた

伝達が沢山の来場を呼び、例年以上の盛況と新たな出会いが生み出されました。

筋原生野区長、そして大椿参議院議員のあいさつでは「多文化共生」を建前だけに終わらせず、真に私たち在地同胞をはじめ在日外国人の存在が輝ける社会をつくろうという意志で共通していました

が、これを私たちが取り組む運動の追い風につながる可能性としてとらえて行きたいと思います。

さらに今年は朝鮮戦争停戦70年にあたり、祖国の自主、平和を実現するための具体的な課題を共有するという目標がありましたが、これは統一マダン生野という一日の行事の中で、どう打ち出せたかということにとどまらず、むしろ統一マダン生野を契機に継続して取り組むべきテーマだということをお伝えしたいと思います。

最後に私たち在地同胞にとって逆風続きの日本の世相にあって、今回の成功のために協力、尽力して下さった賛同者の皆さん、そして実行委員及びスタッフの皆さん、チョンマル コマプスムニダ(本当にありがとうございました)。



▲主催者挨拶を行う金昌範実行委員長

韓国から615市民合唱団を迎え 多彩な演目で子どもも大人も楽しむ

第28回統一マダン生野は、3組の初出演者をはじめ多彩な舞台演目で盛り上がりました。

最初の演目は、大阪朝鮮中高級学校民族楽器部による民族楽器演奏で、次に今回初めて出演したカオリンズによる歌が披露された後、キックアーツテコンドーによるテコンドーの演武が行われ、子どもたちによる元気いっぱいのテコンドーの演武が披露されました。



▲大阪朝鮮中高級学校民族楽器部による民族楽器演奏
(撮影:細川義人)

続いて、第1回統一マダン生野から出演している文芸同大阪舞踊部による華麗な朝鮮舞踊が披露された後、金昌範実行委員長の主催者挨拶が行われ「停戦協定締結から70年を迎える今年、未だに平和協定が締結されていません。統一マダン生野に集まった私たち、平和を愛する市民が手をつなぎ、世界に平和の花を咲かせましょう。今日一日、共に楽しみましょう」と来場者に訴えました。また大椿ゆうこ社民党参議院議員からの来賓挨拶もありました。

その後、火曜バンドによるバンド演奏、筋原章博生野区長の来賓挨拶、こちらも今回初出演になるカレコレの漫才、きむ・きがんさんによるミニライブが披露されました。

その他にも世界的パフォーマーのちゃんへんさんのジャグリング、安聖民(アン・ソミン)さんによるパンソリ、ハンテプンによる力強いサムルノリが披露されました。

そして、第28回統一マダン生野のゲストとして招請した韓国615市民合唱団が舞台に上がり

合唱が披露されました。

615市民合唱団の合唱では、在日同胞もよく知っている民謡をはじめ朝鮮学校を支援する歌、祖国の平和統一を願う歌などが披露され、会場の雰囲気は最高潮になりました。



▲韓国から参加した615市民合唱団による合唱

そして最後に再びハンテプンがフィナーレを飾り、参加者が手を取り合いながら「ウリエソウォン(私たちの願い)」を合唱しました。

ビールに焼鳥・冷麺など出店多数

第28回統一マダン生野では多くの団体・個人の協力を得て出店が並びました。



▲子どもたちに人気のスーパーボールすくい

ビールに焼肉、焼鳥、冷麺、キムパッなどの飲食店はとても盛況でした。また毎年子どもたちに人気のスーパーボールすくいなどの出店もあり、大人も子どももとても楽しんでいました。



【統一マダン生野感想文】

統一マダン、企画側から見た景色

金紀愛(キム・キエ)

生野区民となって早16年。朝青(在日本朝鮮青年同盟)の一員としてかき氷作りに汗を流したり、他団体と一緒にサムルノリを披露したりと、私にとって統一マダン生野はとても身近なものであり、毎年当たり前前にそこにあるものであった。ところが今年、その「当たり前」が多くの人のがんばりの結晶であると知ることになった。

きっかけとなったのは、私が所属する性差別撤廃部会 in 関西(通称:だれいき関西)で「ブースを出したい!」という意見が出たことだった。「ブースを出す?めっちゃ面白そうだけど、どこに?…」という不安がよぎった矢先、提案したメンバーの一人から「今年の統一マダン生野に出せたらいいな」とコメントが。まさに「渡りに船」であった。

とはいえ、活動で直接関わった方以外にとっては

「だれいき関西なんて聞いたことないわ〜」といった程度の知名度なのが現状だ。「いきなり出店申込をしても怪しまれることは必至だな」と考え、団体の紹介と挨拶のため、ブース企画チーム結成直後の実行委員会にお邪魔した。…のだが、生来の発言の多さを抑えなかったことが運の尽き(?)。実行委員会の一員として企画側に片足を突っ込むことになってしまった。

そこで今回学んだこと、感じたことを、せっくなので率直に述べてみようと思う。まずはポスター貼りについて。統一マダン生野といえば民族的情緒あふれるあのポスターを思い浮かべる人も多いのではないだろうか?今回、居住地区周辺の分を引き受けたのはいいが、実行委員長直伝の「過去実績入りの地図」がなければ詰んでいただろう。過去の実行委員の方々が「飛び込み営業」で開拓していったからこそ「今年もお願いします

〜」でクリアできているのだなと実感した。率先して動く若手が少なかったため、残りの地区のほとんどを自分の親と同年代の方が回られたのかと思うと申し訳ない気持ちになった。

次にアンケートについて。実行委員の一人から「来場者からのフィードバックを受けて改善につなげたい」という意見が出た。項目を「統一マダン生野に来たきっかけ」に絞ったのは、人手不足が深刻な中で注力すべき点をはっきりさせるため

だった。どうすれば来場者はアンケートに参加してくれるだろう?前向きな意見出しができた時はワクワクしたが、実行の段階になるとみんな渋ってしまう。「言い出しっぺだからな…」と担当することが多くなると、負担に感じたりもした。

このように若手が複数集まっていながらも、ポスター

とアンケートのたった2つですら思うように進まない中、会場の手配から出演者との折衝、特に韓国からのゲストである615市民合唱団の招致を、ほぼ実行委員長と事務局長のお二人でこなされたことに驚嘆しつつも、不安を覚えたのが正直なところだ。5年先、10年先、きっと同じ方法では続けていくことが難しくなるだろう。

今回、フィードバックをきちんともらうこと、WEBアンケートを導入すること、という2つの意見が出たが、このような新しいアイデアを積極的に取り入れてサポートし、「長」とつく人だけに負担が集中しないよう実行委員会全員で考えていくことこそ、これからの統一マダン生野に求められるのではないかと感じた。「当たり前」ではない、努力と根性で作上げてきた統一マダン生野。これからもずっと続けていくために私も自分にできることを考えたい。



▲「だれいき関西」のブースでは
いろいろな雑貨が販売され好評だった

一分断にともに立ち向かう人々 在日同胞と国内同胞との出会いの広場・2023

金昌五(キム・チャンオ)

昨年10月に韓国で開催された、在日同胞招請事業「分断に立ち向かう人々-在日同胞との同行」の成果を継承・発展させるため、在日同胞と国内同胞との交流事業を継続して推進することを目的に、9月16日(土)から18日(月)まで国内同胞招請事業「一分断にともに立ち向かう人々-在日同胞と国内同胞との出会いの広場・2023」が開催された。主催は韓統連大阪本部と在日韓国良心囚同友会(略称:同友会)。韓国からはモンダンヨンピル(朝鮮学校支援団体)の金明俊(キム・ミョンジュン)事務総長ら5名が参加した。

9月16日(土)に鶴橋駅で集合した参加者は金昌五(キム・チャンオ)事務長の案内で大阪コリアタウンのフィールドワークを行った。最初の参観地は戦後の闇市場の面影を残した鶴橋駅裏の通称「国際市場」。細い路地にひしめく韓国料理を並べた店や韓国雑貨店などに感心することしきりだった。

続いて鶴橋本通り商店街にわずかに残っている「鶴橋警察署跡」を参観し、植民地時代に多くの朝鮮人独立運動家が弾圧を受けた歴史に思いをはせた。コリアタウン入口の御幸森神社では、古代百済と日本のゆかりについて解説を受けた。

休憩を兼ねて韓統連大阪本部事務所を訪問し、映画『私はチョソンサラムです』のインタビューの現場となった図書室を見学した。コリアタウンでしばし自由時間を楽しんだ後、同友会メンバーの柳英数(ユ・ヨンソク)氏が経営する新大阪駅近くの「韓国居酒屋セムト」に移動し、歓迎晩さん会が行われた。同友会からは李哲(イ・チョル)氏、康宗憲

(カン・ジョンホン)氏、柳英数氏が、韓統連からは李鐵(イ・チョル)顧問、金昌五事務長が、韓青からは韓成佑(ハン・ソウウ)委員長が参加し再会を喜び合った。

9月17日(日)には、第28回統一マダン生野に参加した。朝鮮の統一を願う在日同胞と日本人による手作りの熱気あふれるイベントに初めて参加したモンダンヨンピルのメンバーは、世界的に有名なジャグラーのちゃんへんさんのパフォーマンスに感嘆の声を上げ、各界からの演目と韓国から招待された615市民合唱団のステージを満喫した。

9月18日(月)には京都の「ウトロ平和記念館」を参観し、金秀煥(キム・スファン)副館長から約一時間にわたって解説を受け、ウトロ地域の住民たちの闘いの歴史を生き生きと学ぶことができた。お昼には豊臣秀吉の朝鮮侵略を象徴する「耳塚」を参拝し、耳塚横にある休憩

所「交流館、カササギの家」で都相太(ト・サンテ)三千里鉄道理事長とお会いし豪華な仕出し弁当をごちそうになった。竹籠に盛られた京料理の華やかさに思わず歓声が上がった。昼食をともにしながら「カササギの家」を作るに至った経過を都理事長から聞かせていただいた。

2泊3日の短い期間ではあったが、貴重な体験に参加者はとても満足していた。昨年の招請事業の記録映画『祖国への秋の旅行』を作成されたチェ・アラム監督がカメラを回していたので、近いうちに今回の事業の記録映画が作成されるものと思われる。乞うご期待!



▲韓国居酒屋セムトの前で記念写真

【コラム】

韓国の「チョスン(あの世)」について

人の死とは何か。これは人類が太古から抱き続けている疑問だ。これに対する答えは各人の信念や哲学、宗教などにより様々に分かれる。韓国だけを見ても仏教やカトリック、プロテスタントなど多くの宗教が人の死についてそれぞれ教を説き、個人によって死生観が全く異なる。今回はこうした我が国の人々の考えの基層にある伝統的な「チョスン(あの世)」のイメージを見ていこうと思う。

まず「死ぬ」という言葉について、人々はどうのようにとらえているか。韓国語で「死ぬ」は「チュッタ」という。チュッタは「止まる」「消える」という意味でも使われる。人が死ぬということをも身体がもう動かなくなる、生命活動の停止だととらえているのだ。

一方でチュッタの婉曲表現である「トラガダ(亡くなる)」は、日常的に「帰る」や「戻っていく」という意味で使われる。学校や職場から家に帰る時も「トラガダ」と言う。

「トラガダ」は死者の魂が現世ではないどこか別世界のチョスンへと帰っていくイメージだ。精神はチョスン(あの世)へ向かい、肉体はイスン(この世)に留まって残る。つまり死ぬというのは魂の離脱のことだととらえている。これが伝統的な死のイメージだ。

人は死にあたって肉体は停止するが、魂は離れて旅立っていく。そして旅立った先であるチョスン(あの世)で再び生活を始める。ただし、怨恨を抱いて死んだ魂はイスン(この世)にとどまり続け、冤鬼となって恨みを訴え続けると言い伝えられている。

イスンとチョスは二者択一の関係ではない。時には生者が冥途を辿り、閻魔王を捕らえに行くことすらある。隣り合う地続きの世界であり、さらに他にも様々な世界が存在する。三天思想というか、おおまかに分けて天上と地上、そして地下にそれぞれ様々な世界がある。自分たちが住む世界とは違う世界が、いくつも存在するという考え

方だ。

チョスの語源を見れば「チョセン(あちらの生)」になる。イスンもまた「イセン(こちらの生)」。死者はあちらの世界で暮らしているのだ。死は住む世界を変えたに過ぎない。昔の人々はそう考えて人の死を受け入れた。

そして、あの世に旅立った死者の魂といかにして結びつくのか。これに関して我が国は王から庶民まで、自らの祖霊を祀る努力を続けてきた。祭祀(チェサ)の儀礼を盛大に行い、ムーダン(巫堂)やシンバン(神房)が「クッ」「ポンプリ」と呼ばれる儀礼を何度も執り行い、祖先の魂が無事にあちらへ辿り着くように祈るのである。

こうした伝統儀礼における儒教や仏教、道教の影響は大きい。祭祀の儀礼は基本的に儒教の『朱氏家礼』に基づいている。ただし、

儒教が「あの世」を語ることはあまりない。そも孔子は「未だ生を知らず。焉んぞ死を知らん」と説いている。死について考えるよりも、生について考えるべきという立場だ。

一方で仏教は土着の巫(シャーマニズム)と複雑に習合していった。濟州道の葬送などにおいて行われる「シウァンマジ(十王迎え)」では、死者の魂に捕まえに来る使者を迎え、地獄を司る閻魔王など十王を歌い、死者の魂がチョスの極楽往生するよう祈願する。これは仏教、もしくは仏教が入り混じった中国の道教の影響を受けているのだろう。

こうして見ると我が国の「あの世」のイメージは民族固有の観念を基にしながらも、仏教の影響が強いものようだ。あえて我が国独自の要素を探せば『安楽国太子経』や『二公本解』にうつつらと示唆される人の魂の行き着く地として、「西天国の花畑」が挙げられる。この世界と地続きにして、死者の魂が住まう場所は西のかなたの花畑なのだろうか。(好)



▲濟州道のシウァンマジ(十王迎え)の舞

【韓国ドラマ紹介】 ブラックドック～新米教師 コ・ハヌル～

韓国映画や韓国ドラマはよく見る。統一問題や歴史もの、反独裁や労働運動など硬派が多い。今回は学園もの、私立高校が舞台のドラマだ。派手さはないが淡々と高校を描いている。実にリアルに。

韓国の学校制度、大学受験は日本と違い、初めは戸惑ったが、回を進めるごとに引き込まれていった。

非正規の新採教師、コ・ハヌル(ソ・ヒョンジン)が主人公だ。進学部長のベテラン教師、パク・ソンスン(ラ・ミラン)との絡みが延々と続く。これが新鮮で興味深い。脚本のよさと、俳優のうまさなのだろう。二人ともドラマでよく見る。特にソ・ヒョンジンは「浪漫ドクター キム・サブ パート1」の外科医でも素晴らし演技を見せている。

韓国の受験の凄まじさはある程度知っていたが、このドラマでその全貌を知った。終日開いている仕切りで区切られた狭い自習室、成績別の特進クラス、その他想像を絶する内容だった。私は進学校や有名私学の経験はないが、日本の比ではないようだ。そのような高校での大学受験を新人教師

を通じて高校生、教師たちの苦悶と叫びが描かれている。

特進クラスの「イカロス」が登場する。色んな経緯があり、新人の非正規の主人公がこのクラスを担当する。そしてドラマの最後にはこの特進ク

ラスは廃止になる。イカロスはギリシャ神話に出てくる人物だが、最後は消滅する。この結末が興味深い。

この投稿をするにあたり、ネットで調べると、当時韓国では社会現状になるほどヒットしたそう。脚本は元教師。妙に納得した。

全16話を見終わり、新人教師とベテラン教師との絡み、初め孤軍奮闘するが、誠実に生きるこの非正規教師の影響が少しずつ学校内に浸透する様は感動的です。高校現場を描いているが、私たちの生き方や活動

上の参考にもなるドラマです。

「ブラックドック」というドラマ名には最後まで引っかけた。黒犬、日本ではこのような言い伝えはないですから・・・。

このドラマはNetflixなどで見ることができます。(中山茂)



◆◆行事案内◆◆

とめよう！戦争への道 めざそう！アジアの平和

2023秋関西のつどい

日時：10月21日(土)午後1時50分 開会

場所：エルシアター

(京阪・地下鉄天満橋駅下車徒歩7分)

資料代：500円(中高生・介助者無料)

内容：講演①「岸田大軍拡の本質を暴く」

布施祐仁さん(ジャーナリスト)

講演②「とめよう沖縄・南西諸島の軍事化」

山城博治さん(平和運動家)

主催：同実行委員会 TEL06-6364-0123

韓統連大阪本部 2023年野遊会

日時：10月29日(日)午前11時 集合

場所：淀川河川公園 太子橋地区バーベキューエリア

(地下鉄今里筋線・谷町線太子橋今市下車

4番出口から徒歩10分)

参加費：大人2500円 中高校生1500円

小学生以下は無料

※ビールは販売します。お茶は無料です。

※おにぎりなどは各自持参してください。

※雨天の際は残念ですが中止です

主催：韓統連大阪本部 TEL090-3822-5723 (崔)